

令和 5 年度 第 2 回美術館協議会

1 日 時 令和 5 年 12 月 18 日(月)14:00~15:30

2 開催場所 三木市役所4階大会議室

3 議 題

(1)報告事項

ア 令和5年度 事業実施状況(別紙 1)

① 入館者

② 企画展別入館者数

イ 令和 5 年度 後期展示事業活動計画

(2)協議事項

ア 令和6年度 展示事業計画(案)

イ 令和6年度 展示事業活動計画(案)

(3)その他

4 出 席 者

(1)委 員 山下泰生会長、岩本充洋校長、公森 仁

米村 環、高谷美貴子

(2)事務局 本岡教育総務部長、手島文化・スポーツ課長兼館長

西馬副課長、向山美術館専門員、橋本事務職員

和田事務職員

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人の数 0人

7 会議内容

開会 会長開会挨拶

会長：三木市 CG アートコンテストの表彰式にて、大北教育長と話す中で三木市の文化振興を進めて行くべきだということが話題に出た。堀光美術館もよりよい美術館運営に向かっていければと思う、活発な議論をお願いしたい。

-事務局報告-(1)報告事項

ア 令和5年度 事業実施状況(別紙 1)

イ 令和5年度 後期展示事業活動計画

事務局:令和5年度事業状況について、前年度までと比較してコロナ以降、入館者は増えている。通常8月はアート・ティーンで入館者が減少する傾向があるが、雲丹亀利彦展の一週間で400人来館者があり8月合計が1082人であった。5月の池内先生、8月の雲丹亀先生の来館者がそれぞれ1000人を超え、今年度は現在6200人の来館。11月26日に終了した上田桑鳩特別展では500円の入館料を頂いたが、結果887人の来館者があった。

続いて令和5年度後期展示事業活動計画について。現在12月24日まで第48回グループしぶがき展を開催中。来年1月13日から三木美術協会の写真部から岡野さん桑田さんの写真展、2月から野口さんの鉛筆画展、堀光コレクション展を4月14日まで開催する。

パワーポイントで映像を見ながら説明

- アート・ティーン公募展の表彰式の様子
- 雲丹亀利彦展ワークショップ、レプリカプレゼント
- 後期・上田桑鳩展について

第3回アート・ティーン公募展7月21日～8月23日。多数のご家族も来館し、表彰式を行った。最優秀賞、優秀賞、入選入賞を含めて注目すべきは半数以上が中学生であった。最優秀賞も優秀賞も中学3年生の方だった、中学生の活躍、技術のレベルの高さがどんどん上がってきているという印象をもった。今年は105名の応募であったが、三木市からは高校生9人、中学生5人と、応募が少ないと感じている。高校に働きかけが必要と考えている。雲丹亀利彦展8月26日～9月24日に1506人の来館。「レプリカ作品プレゼント」で先生自ら120点のレプリカを額に入れて制作して下さった。予約開始の9月9日は盛況だった。「小さな日本画を描こう」ワークショップは、雲丹亀先生をはじめ京都精華大学の田口先生、水田先生と3人の先生方のご協力を賜った。28名の参加者の作品を美術館で展示することができ、とても喜んでいただいた。雲丹亀先生には、改めてここで感謝申し上げます。後期に入り、上田桑鳩展。10月14日～11月26日、887名の来館。上田家、飛雲会から寄贈いただいた作品とビデオも展示した。その中で、特別講演会として11月11日兵庫県立美術館学芸員、剣持翔吾さんに講演いただき57名の参加があった。飛雲会の牛丸代表によるギャラリートーク、研修会も行われ70名が参加された。奥谷地区から研修会として12名の方が来館された。今回有料の特別企画展ということで美術館から無料配布小冊子を5種類制作した。上田桑鳩展は887人の来館であった。

会長：前期・後期の展示事業に関する報告だったが質問・意見はないか。

委員：昨年度議題に挙げた、桑嶋コレクションに関する方針はどうなったか。

事務局：来年度は 70 周年に展示する方向であるが詳細については決まっていない。2 冊目の図録作成は準備している。作品の貸し出しなどの方針は検討中。

委員：広報みきに美術館特集号の掲載をしてもらう件はどうなったのか。

事務局：広報みきにアプローチしている、確約は出来ていない状況。

-事務局報告-(2)協議事項

ア 令和6年度 展示事業計画(案)

事務局：堀光コレクション展、年度末から開催予定。4 月 27 日から三木市美術協会洋画部会展を 5 月 12 日まで開催。来年度は、市制施行 70 周年ということで、特別企画展を3つ計画している。5 月 25 日から伊丹三樹彦展「写俳と書俳—一句—人生—」を開催。掛け軸 20 点、先生が使われていた手帳などの展示を予定。写真と俳句の作品は 35 点ほどお借りして写俳を展示。写俳は静岡の俳句会で一度展示されただけの作品、その他では初公開となる。中央図書館と連携して、書籍 100 点は中央図書館の方で展示。次に木版画家の先生方と創作版画協会にご協力いただき木版画展を開催予定。8 月 3 日から第 4 回アート・ティーン公募展開催。先ほど問題点を挙げたとおり三木市の中高生に多く応募いただけるように美術館として努力していく。70 周年記念の上田桑嶋展、美術館、歴史資料館、中央図書館と連動して、作品、書籍、関連項目など展示する。10 月、ING兵庫とは兵庫県在住の名の有る洋画、日本画、彫刻の作家が集まった団体。三木山森林公園森の風美術館と共同開催する。次に 12 月 8 日から第 49 回グループしぶがき展。1 月 10 日から三木市美術協会書道部の二人展、市田山先生と井関先生の作品展を開催。2 月上田桑嶋先生の弟子として活躍された上羅芝山先生、神沢知丘先生、高郷石峯先生三人展を予定。3 月はたんば・みき合同作品展、丹波市作家協会と三木市美術協会の合同作品展を予定。

会長：令和6年度展示事業計画(案)に意見・質問はあるか。

委員：来年度の桑嶋展だが、今年と同じように 500 円の入館料は取るのか。

事務局：入館料をいただく予定。

委員：入館料 11 万円の使い道を桑嶋コレクション関連の財源に充てる事はできないか。

事務局：入館料は市の会計に入る。但し収入があったことで来年度予算が要求しやすくなった。

委員：アート・ティーン公募展の応募要項の内容は応募側のハードルが高い部分がある。

事務局：来年度はそういう部分について修正していきたい。

委員：桑嶋展の招待券について、美術館を寄贈された堀田さんにはお渡ししているのか？

事務局：お渡ししていなかった、来年度はご案内できるようにしたい。

委員：来年度、上田桑嶋展は有料だが、他の企画展は無料というのはどうか。

事務局：例えば、来年度のING兵庫の特別企画展、入館料をという話になったが、先生方に「三木の芸術文化に貢献したいので無料で」と、他の先生方も無料でいいといってくださいるのでお言葉に甘えている。

委員：教育面からもっと学生や、美術を勉強している人に堀光美術館に来ていただけるような企画もあればいいと思う。

事務局：展示をしているだけではダメで、堀光美術館の場所、三木市に美術館があるというアピールをする努力が足りていない。ワークショップなど先生方のご協力をいただきつつ、努力していく。

委員：展示の期間をもっと長期に出来ないか？

事務局：かなりの作家さんが、短い期間の開催を希望される。

委員：チラシ、ポスターの公表をもっと早く出来ないか。

事務局：三木市の記者発表後からチラシ、ポスターなどを配布できるので、それまで公にできない。

委員：作家さんに出会える美術館というのが、堀光美術館の大きな売り。Instagram、Xを有効に使ってPRしてはどうか。

事務局：美術館は三木市のイベントのXアカウントを使用している。決裁が必要なので、今来てくださいというような情報発信は今のところできていない。Instagramは秘書広報課に依頼するようになっている。

会長：美術館側ではなく、ヘビーユーザー、来館者、個人に投稿していただくことができれば、情報がタイムリーに出ていく。

事務局：美術協会や芸術文化会議の方が来てくださるので、SNSをされている先生方にはお願いしている。来館者の特徴として、高齢の方が多い。SNSをチェックされない方も半数ぐらいおられる、口コミに頼っている。

会長：アート・ティーンの作品数を増やすにはSNSの活用も有用だと思う。それと夏休みに作品制作に取りかかってもらい、夏休み後に出してもらうなど日程的なことも考慮すべき。基本的には来年度の事業計画が予定されているが、作家先生との話も進んでいると考えてよいか。

事務局：進んでいる。日程の微調整はこれから行う。

委員：上田桑鳩展の神戸新聞の後援が抜けていたのは良くなかった。

会長：委員の方のご意見、PRする方法を考えていかなければいけない。今後も検討していかなければならない。

委員：新しい美術館の動きはあるか？

事務局：市で公共施設の再配置計画をしている。その中で美術館とみき歴史資料館、金物資料館の3施設を集約できないかという案がある。検討会を今年度中に立ち上げ

る予定になっている。

会長:それは場所の移転も含めてか。

事務局:美術館の建っている土地自体が史跡になっているため、新しい建物が建てられない。この3施設の建物は老朽化している使えない。どこか違う場所に、新しいものを建てるのか、まず議論を内部で始め、ある程度まとまったら皆様のご意見を伺いたいと考える。

事務局:来年度の事業計画のなかの70周年のイベントについて、5月に予定している伊丹三樹彦展は三木市の俳句会三美会の協力を得る。句会、ギャラリートーク、俳句大会ができないかいうのを相談し、可能という返事をいただいた。子どもの部、一般の部門と分けて俳句大会をする予定。桑鳩展、講演会ギャラリートーク等を実施する予定。ING兵庫美術展では例えばワークショップや、小・中学生向け工作指導をしていただく予定。木版画展、三木の金物を皆さんに周知したいので、金物資料館、金物組合さんと相談して展示イベントができないか考えている。

会長:我々も協力できるところは協力して、美術館活性化に進めていければと考える。

閉会 会長挨拶